



高 崑博士

- 香港中文大学 学長
- 元Executive Scientist, ITT

低損失ガラス・ファイバの可能性と重要性を初めて理論的に指摘し、光ファイバ通信の実現の端緒を開いた先見的貢献

略歴と主なる業績

高崑博士は、1933年中国の上海に生まる。同博士は、英国に学び1957年ロンドン大学より電気工学の学士号を、同じく1965年に博士号を授与された。

同博士は1957年ITTに入社し、英国におけるITTの子会社であるスタンダード・テレホン・アンド・ケーブル (STL) において、エンジニアとして出発した。

1960年には、ITTのヨーロッパにおける中央研究機関であるスタンダード・テレコミュニケーション・ラボラトリー (STL) に移られた。同所での10年間に、同博士は一研究者から研究マネージャーにまで昇進された。同博士が、光ファイバ通信の分野において先駆的貢献をされたのは、この間のことである。その研究業績は、マイクロ波および光の領域での電磁波の理論的・実験的研究と、通信システムの技術と応用にまたがっている。

1970年から1974年までの4年間同博士は、ITTを離れ、香港中文大学において、電子工学部門の上級講師を、引き続いて主任教授を勤められた。新設の電子工学部門の部門長として学士および大学院課程の設立を担当され、その最初の卒業生を送り出すに至った。

同博士は、1974年、再びITTに戻られたが、その頃には、光ファイバもいよいよ生産前期に入りつつあり、このたびは米国バージニア州ローノークにあるElectro-Optical Products Divisionに所属することとなった。そこでは最初はChief Scientistとして、後に、Director of Engineeringとなられた。同博士は、電気通信工業のためのファイバオプティクスの研究開発の分野で数々の貢献をなすとげられた。特許取得は30件余に及び、また100件を越える論文発表を行っている。同博士の編集になるテキストも多数に及びまた、光ファイバに関する著書を2冊あらわされた。

1982年、ITTは同博士の優れた研究及びマネージャーとしての能力を認め、ITT最初の「Executive Scientist」に任命された。こうして、同博士は、同博士が現時代にふさわしいと判断する如何なる研究活動をも遂行できる広

い権限を与えられたのである。そのひとつとして、同博士は、信号処理技術における高周波数の限界に取り組んだプログラムを発足させた。この制度はさらに、R&D部門のマネージャー達が特に材料、デバイスの分野での研究効率を向上させるのを支援する手段として立案されたものである。同博士は、主として、米国コネチカット州のアドバンスト・テクノロジー・センター (ATC) に在勤したが、1985年から1年間西ドイツのSELリサーチセンターにも滞在された。同時にエール大学のトランバルカレッジの助教授とフェローにも指名された。

1987年、同博士は、香港中文大学の副総長に任命された。10月に副総長として実際の職務を始めるまでの間、コンサルタントとして Bell Communications Researchに滞在された。

主なる受賞

- 米国IEE学会フェロー
- 米国IEEE学会フェロー
- 1976年「Morey Award」(米国セラミック学会)
- 1977年「Stewart Ballantine Medal」
(米国フランクリン・インスティテュート)
- 1978年「Rank Prize」(英国ランク信託基金)
- 1978年「Morris H.Liebmann Memorial Award」
(米国IEEE学会)
- 1979年「L.M.Ericsson International Prize」
(スウェーデン)
- 1980年「Gold Medal」(米国The Armed Forces Communications and Electronics Association)
- 1983年「US-Asia Institute Achievement Technology Award」(米国アジア学会)
- 1985年「Alexander Graham Bell Medal」
(米国IEEE学会)
- 1985年 Marconi International Fellowship (米国)
- 1985年 「Columbus Medal」
(イタリア・ジェノア)
- 1985年 「名誉科学博士」(香港中文大学)